

施策マネジメントシート1(20年度目標達成度評価)

作成日 平成 21 年 6 月 23 日
更新日 平成 21 年 9 月 9 日

総合計画体系	政策No.	4	政策名	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	施策統括課	生涯学習課	施策統括課長名	高木 敏明
	施策No.	22	施策名	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成	関係課	商工振興課、学校教育課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等
市民及び市の出身者

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)

合志市の歴史・伝統・文化に触れ、郷土に対する愛着や誇りを持つ

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)

A 設問:「あなたは、過去5年間に一度でも合志市の歴史・伝統・文化を見た、または参加したことがありますか?」
【例:歴史資料館、郷土資料館、竹迫観音祭り、須屋小屋地蔵祭り、竹迫城跡公園、二子山石器製作遺跡等】

選択肢:①見た、または参加したことがある ②見た、または参加したことがない

B 設問:「あなたは、合志市を郷土として愛着を感じていますか?」(①、②合計の割合)

選択肢:①とても感じている ②やや感じている ③あまり感じていない ④全く感じていない

C 設問:「あなたは、合志市を郷土として誇りを持っていますか?」

選択肢:①持っている ②持っていない

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない

名称	単位
A 人口	人
B	
C	

④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない

名称	単位
A 合志市の歴史・伝統・文化に触れている市民の割合	%
B 合志市を郷土として愛着を感じていると答えた市民の割合	%
C 合志市を郷土として誇りを持っていると答えた市民の割合	%
D	
E	
F	

2 指標等の推移

指標名			単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
対象指標	A	人	見込み値					53,909	54,518	55,124	55,732
			実績値	52,085	52,695	53,303	54,047	54,407			
	B		見込み値								
			実績値								
	C		見込み値								
			実績値								
成果指標	A	%	目標値				47.5	48.0	48.5	49.0	
			実績値	未把握	未把握	47.0	47.4	45.2			
	B	%	目標値				70.9	70.9	70.9	70.9	
			実績値	未把握	未把握	70.9	70.8	68.9			
	C	%	目標値				57.6	57.7	57.8	58.0	
			実績値	未把握	未把握	57.5	57.6	57.4			
	D		目標値								
			実績値								
	E		目標値								
			実績値								
	F		目標値								
			実績値								
事務事業数				本数		18	17	13	13	12	
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円			48,670	19,191	16,796	12,817	0
			都道府県支出金	千円			0	0	0	0	0
			地方債	千円			40,700	0	0	0	0
			その他	千円			23,040	10,380	6,800	700	700
			繰入金	千円			0	0	0	0	0
			一般財源	千円			90,037	21,419	14,060	7,788	4,571
		事業費計（A）	千円	0	0	202,447	50,990	37,656	21,305	5,271	
		(A)のうち指定経費	千円			8,484	8,418	8,470	8,470	0	
	(A)のうち時間外、特殊勤務手当	千円			7,000	7,031	7,000	7,000	0		
	人件費	延べ業務時間	時間			8,802	7,793	3,576	3,576	2,621	
		人件費計（B）	千円			35,206	31,171	14,304	14,304	10,484	
	トータルコスト(A)+(B)				千円	0	0	237,653	82,161	51,960	35,609

基本計画期間における施策の
目標設定とその根拠
(水準の理由と前提条件)

・歴史伝統文化に触れている市民の割合(A)は、今まで触れたことのない市民の人口増(自然増100人と転入の700人＝800人増)があるので、微減すると思われる。・Aの目標値は、市民にウーブルを拠点とした文化振興事業や資料館展示、また祭り等を通し、歴史・伝統・文化に触れる機会をより多くもってもらうことにより微増すると思われるので、22年度には2%増加すると設定した。
・郷土として愛着を感じている市民の割合(B)は、人口増とともに微減すると思われる。・Bの目標値は、現状でも近隣と比して高いと思われるが、19年度から市指定文化財の発掘にむけての調査を実施する予定であり、これらを通じて、郷土を再発見してもらう機会が増えたと考え、人口増を加味しても22年度では、現状の水準の70.9%と設定した。
・郷土として誇りを持っている市民の割合(C)は、人口増により減少すると思われる。・Cの目標値は、現状でも高いと思われるが、新しい地域文化創造への参画推進、子ども達が歴史・伝統・文化に触れ合う機会を作り(地域、学校)子ども達を育てること、旧2町の歴史・伝統・文化の相互理解をはかるなどの取組みを進めることで、少しづつ誇りをもってもらうようになると考え、18年度の57.5%を22年度では58%と設定した。
他地域との交流を活発におこなってもらうことが前提となる。

基本計画期間における
施策の方針

・旧2町の歴史・伝統・文化の相互理解をはかる。新たに転入してきた住民に歴史・伝統・文化を理解してもらい、新しい地域文化の創造に参画してもらう。

全庁横断課題『子育て支援日本一のまちづくり』との連携

・子ども達が歴史・伝統・文化に触れる機会を作る(地域、学校)

施策マネジメントシート2(20年度目標達成度評価)

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)
 ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)
 ・住民は、昔から伝えられた行事などに参加することで、歴史・伝統・文化を継承してもらう一方、それらをもとに新しい文化を創造し、ともに伝えていってもらう。
 ・地域は、地域コミュニティの再構築を図り、地域の連帯感を醸成する。
 ・事業所は地域の行事に積極的に参加、支援をしてもらう。

イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・施設の整備、保存、及び活用促進
- ・文化財の保護、保存
- ・地域の取り組みに応じた支援

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成22年度を見越して)

- ・市の財政状況が厳しくなり、事業の継続が困難となることが予測される。
- ・歴史資料館と郷土資料館のあり方について、H21年度に展示資料や所蔵物等の調査を行い、両館の統廃合について検討を進め、平成22年度に詳細検討を行う予定である。

③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・文化施設について、利用している近隣市町や市民からは評価が高いが、利用しない市民からは税金の無駄遣いだという声も聞かれる。
- ・地域で開催している祭りについて、市の主催にして欲しいという要望がある。
- ・市民ワークショップでは「文化面への推進が遅れている」「地元に関心のある人が少ない」との意見があった。

4 施策の評価

① 施策の目標達成度(20年度目標と実績との比較)

A → ×【 合志市の歴史・伝統・文化に触れている市民の割合 】
 : 目標値48.0%に対し実績値45.2%であり、達成度は94.2%であった。
 B → △【 合志市を郷土として愛着を感じていると答えた市民の割合 】
 : 目標値70.9%に対し実績値68.9%であり、達成度は97.2%であった。
 C → △【 合志市を郷土として誇りを持っていると答えた市民の割合 】
 : 目標値57.7%に対し実績値57.4%であり、達成度は99.5%であった。
 D → 【 】
 :
 E → 【 】
 :
 F → 【 】
 :

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

市民アンケートによる数値であり、世界同時不況による社会状況の悪化が原因と思われる。
 また、人口が転入等により0.7%増加しており、この部分については、歴史伝統等アンケート結果のマイナス要因になっていると考えられる。

※○:目標達成 △:目標をほぼ達成(ー5%程度) ×:目標を未達成

② 施策の振り返り(施策の方針、全庁横断課題との連携の達成度等)

- ・特別展では市内の神楽保存会による舞の公演を行い地域伝統文化の啓発に努めた他、ふるさと探訪バスにより地元の歴史文化の散策やこども歴史科学体験を市内の小学生を対象に10回行い郷土に触れる機会の提供に努めた。
- ・事務事業貢献度評価の結果では、平成20年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、合志歴史資料館運営事業があげられ、貢献した事務事業には西合志郷土資料館維持管理事業及び伝統郷土芸能等支援事業が位置づいた。

③ 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- ・遺跡・史跡の保護活用を図っていく。
- ・地域伝統文化の後継者育成に努める。

施策マネジメントシート2(20年度目標達成度評価)

5 施策の20年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成21年 7月 3日)

- ・歴史、伝統、文化については、合併後3年であり、合志市の文化として捉えてもらうには時間を要すると考えられる。合志伝統の神楽など、学校で見せる機会をつくり、子どもたちの関心を高める啓発も必要である。以前は高千穂神楽の研究発表等の事例もあり、学校行事等のスケジュールは過密だが、取り組めるよう検討すること。
- ・児童・生徒が文化に触れる機会について、小学校のお見知り遠足など、合志市の文化に触れることができる場所への取り組みは、小学校では社会科見学等で取り組んでいるが、遠足等の問題としては交通安全上の課題、トイレの問題があり、竹迫城公園、弁天山公園など取り組んでいるが、今後は高齢者と子どもたちのふれあいの場をつくる検討も必要である。
- ・合併後の市の一体化に向けて、まだ市民どうしがお互いに交流できていないという意見もあり、市の財産である歴史・伝統・文化のPRに努めること。

② 総合政策審議会での指摘事項(平成21年 8月 5日、8月10日、8月26日、9月3日まとめ)

- ・この施策の基本事業「歴史・伝統・文化(文化財)の保護」について、目標数値:10.4%の設定を見直す必要がある。地域の歴史・伝統・文化は地域ブランドの創造と強く結び付いており、ブランド化の発信につなげる文化財等の積極的なアピールに努める必要がある。
- ・市が指定する文化財指定基準要綱の制定により、今後は市の基準に基づいた指定がすすむと考えられ、地域ブランドとのつながりなど、今後も強力に啓発する必要がある。
- ・市の伝統文化の情報発信がうまく行われていない。発信の仕方、手段の研究を行う必要がある。
- ・目標の達成度について、数値が低いことが、世界同時不況による社会状況の悪化という評価はピンとこない。もう少し詳細な分析が必要である。

③ 議会の決算審査における指摘事項(平成21年10月 2日)

- ・歴史資料館と郷土資料館は統一すべきである。
- ・地道な施策だが、根気よく継続すること。

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成22年度合志市経営方針(平成21年10月23日)

- ①2つある歴史資料館について、統廃合の方向で引き続き検討を進める。
- ②地域の歴史や伝統文化について、ブランド化につながるよう関係機関との連携を図り、アピールに努める。
- ③市史の編纂をさらに進める。

施策マネジメントシート3(20年度目標達成度評価)

基本事業名	76 歴史・伝統・文化(文化財)の保護	基本事業担当課	生涯学習課
-------	---------------------	---------	-------

対象	歴史・伝統・文化(文化財)	意図	良好な状態で保たれている
----	---------------	----	--------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 指定された文化財の数 ／文化財の数×100	%	目標値				10.4	10.4	10.9	11.4
		実績値	9.9	10.4	10.4	10.4	10.4		
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

旧合志地区と西合志地区の文化財指定の基準に相違があったので、西合志地区の文化財の指定が少ない状態となっている。文化財の詳細調査を西合志地区から、20年度までには実施することで、西合志地区から新たに文化財の指定が進むと考えられ、22年度には目標値が11.4%になると設定した。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

20年度に市指定文化財指定基準要綱を作成した。22年度はこの基準を基に市指定文化財を指定する予定で進めており、今後の目標値を達成したい。

基本事業名	77 歴史・伝統・文化に触れる機会の提供	基本事業担当課	生涯学習課
-------	----------------------	---------	-------

対象	市民、市の出身者	意図	多くの歴史・伝統・文化を知り、触れることができる
----	----------	----	--------------------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 合志市の歴史・伝統・文化に触れている市民の割合	%	目標値				47.5	48.0	48.5	49.0
		実績値			47.0	47.4	45.2		
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

歴史伝統文化に触れている市民の割合(A)は、今まで触れたことのない市民の人口増(自然増100人と転入の700人＝800人増)があるため、目標値は、市民にグーブルを拠点とした文化振興事業や資料館展示、また祭り等を通し、歴史・伝統・文化に触れる機会を多くもってもらうことにより微増すると思われるので、22年度には2%増加すると設定した。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

特別展では市内の神楽保存会による舞の公演を行い地域伝統文化の啓発に努めた他、ふるさと探訪バスにより地元の歴史文化の散策やこども歴史科学体験を市内の小学生を対象に行い郷土に触れる機会の提供に努めた。今後も引き続き同様の事業を行うと共に、遺跡等文化財の案内看板や標柱などの整備を行い文化を知り、触れやすい施設の管理に努めたい。

基本事業名	78 伝統文化の継承	基本事業担当課	生涯学習課
-------	------------	---------	-------

対象	文化財、市民、市の出身者	意図	・継承されている ・後継者として育っている
----	--------------	----	--------------------------

成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 後継者のいる団体数と割合	%	目標値				63.6	63.6	63.6	81.8
		実績値	63.6	63.6	63.6	63.6	63.6		
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

伝統または伝統を活かした活動を後世に継承し、文化振興の担い手となつてもらうため、全ての団体に後継者がいる状況が最も望ましいと思われる。

後継者のいない団体4団体について、現在後継者育成に取り組んでいる団体が2団体あるので、後継者育成の支援を強化することで、22年度には、81.8%(2団体増)を目標として設定した。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

補助金交付時に後継者育成をお願いしている。